

第8回委員会における 委員からの主なご指摘と対応

第8回委員会における委員からの主なご指摘と対応①

<避難計画策定の現状について>

	検討委員会の主なご指摘	対応(案)	参照先
①	避難計画の記載状況について、6項目をすべて策定している市町村数だけに注目するのではなく、その内容の分析も発信できないか。	策定項目数及び項目別策定状況の推移として、平成28年度に比較して、策定が進んでいることを記述しました。	【資料2】避難計画策定の現状と今年度の対応→P3、4

<居住地における避難計画の検討手順案について>

	検討委員会の主なご指摘	対応(案)	参照先
②	避難計画を検討する上で、計画の前提条件を明確にし、前提条件が変われば、臨機に対応しなければならない場合があることを明確にすること。	避難計画で想定する前提条件と実際の噴火時等には、噴火の条件が前提と異なる場合があることに留意する必要があることを記載しました。	【資料3-2】避難計画策定の検討手順→P2
③	避難計画検討の流れとして、避難方向の検討の前に避難先の選定をするべきではないか。	検討のはじめの段階で避難場所等及び避難所等を選定した上で、おおまかな避難方向を検討し、避難対象地域(地区単位)の避難場所等及び避難所等を検討する旨を明記しました。	【資料3-2①】避難計画策定の検討手順(居住地)→P3
④	避難場所の収容能力を考えると、指定避難場所にこだわりすぎない記載が必要。	指定避難場所以外の避難場所についても、安全性を確認した上で利用することも考える旨を追記しました。	【資料3-2①】避難計画策定の検討手順(居住地)→P14
⑤	地元の意見を取り入れながら検討することが重要であることを明確にするべき。	火山防災協議会を構成する地方公共団体で作成した案について、住民の意見を聞くことが望ましいことを記載しました。	【資料3-2①】避難計画策定の検討手順(居住地)→P4

第8回委員会における委員からの主なご指摘と対応②

	検討委員会の主なご指摘	対応(案)	参照先
⑥	平成27年の活火山法改正のポイントである登山客や観光客といった、新たなターゲットが加わった点を反映させるべき。	火口周辺地域を対象とした避難計画の検討手順(案)の資料を追加しました。	【資料3-2②】 避難計画策定の検討手順 (火口周辺)
⑦	<p>共通のとりまとめ様式(旧:マスターシート)(案)について以下の点を考慮すべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様式の位置づけを整理 ・単純な入力作業にならないよう、留意事項を丁寧に記載 ・イベント時や時間帯による人数の変動に対応できるように ・避難行動要支援者の避難のサポートを考慮できないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・火山防災協議会を構成する地方公共団体が共通の考え方で避難対象地域(地区単位)での避難対象人口や避難場所等を整理・検討し、共有を図ることを目的に、一連の検討結果を共通の様式でとりまとめるための様式であることを記載しました。 ・共通のとりまとめ様式に留意事項を追記しました。 ・昼間と夜間で人口が大きく異なる場合やイベント等で一時的に多数の人が滞留する場合は、とりまとめ様式を個別に作成するなど留意事項を追記しました。 ・避難計画のとりまとめでは、要支援者の避難に関する概要を整理し、個々の要支援者の支援・避難の具体については、個別計画で整理する旨を追記しました。 	<p>【資料3-2①】 避難計画策定の検討手順 (居住地域) →P1、4</p> <p>→P15</p> <p>→P17</p>

第8回委員会における委員からの主なご指摘と対応③

<標準的な記載事例案について>

	検討委員会の主なご指摘	対応(案)	参照先
⑧	事例が形だけ真似られることがないよう、わかりやすいポイントで必要な要素を明確にし、結果として事例が出てくるという書き方だと理解しやすくなるのではないかと。	検討で留意すべき点を示したり、「事例のポイント」として当該火山で工夫されている点などを示すことで、単純な他事例のトレース作業になりにくいようにしました。	【資料3-3】 各火山地域の具体的な 記載事例

<先進的な検討事例案について>

	検討委員会の主なご指摘	対応(案)	参照先
⑨	訓練の事例など集めて、課題をピックアップし、解決のための検討を事例にすることも役に立つ事例集になるのではないかと。	訓練事例の記載は、今年度の取組みを踏まえて、第2版で追加をしたいと考えています。	—